

8月 定例山行 (宮島花火を見下ろす山行)

8月14日(土) 船倉山

廿日市市

参加者12名 CL 若木 SL 西本

宮木(一) 宮木(澄) 得本 坂井 島田 花房 三浦 滝

(上杉、杉山・・・佐伯労山)

《 雄大な花火・・・爆裂音が6秒後に ドーン 》

17時、強い日差しが西に傾く頃、串戸駅に集合。3台のタクシーに分乗して王斜城へ。登山口で準備体操をしていると若い警備員が来て「先ごろ夕方

に車で来て山に登り自殺した人がいる。それに7月の大雨で登山道も崩れている。警察当局から“夜間の登山は危険だから中止させてくれ”と言われて



船倉山の山頂で花火の開演を待つ

急な斜面を大汗をかいて1時間、気持ちの良い風の吹く山頂(545.9m)に着いた。(特に崩れて危険なところはなかったが、帰りは真っ暗なので注意が必要だろう。)見渡せば宮島の大鳥居は目の下。海上には大小の船が鳥居を半円形に囲んで開演を待っている。広島市の夜景もこんなにきれいだったのか。ビールを飲んで弁当も食べ終わった頃、あたりは真っ暗。やがて、ドーン、パチパチ 大輪の花火、水中花火、仕掛け花火 迫力満点。

「華やかに やがて悲しき 花火かな」
(ウーン なにやら盗作の臭い)

きれいな花火も終わってみるとなんとなくもの寂しい。そんな気持ちを抱いて黙々と急な斜面をヘッドランプを頼りに下る。タクシーを呼べど「街道筋は車が一杯でとても回送できません」とすげない返事。やっと佐伯タクシーが津田から来てくれることになった。JRの車内も超満員。「花火はきれいで良かったね。来年も行きたいね」と皆さんの感想。ご苦労様でした。

(記 若木一之)